

Newsletter

ご挨拶 - 時代とともに変化している技術職員の業務 -

平成 21 年 4 月 1 日付けで工学系技術部の技術部長を拝命いたしました。

今、私たち技術部を取り巻く状況は、工学部の改組・新学科設立後の諸課題への対応、そして再雇用制度の本格化等など、極めて厳しく、また、大きな岐路に立たされていると感じております。

これまで技術系職員の活動範囲は教員の研究・教育支援業務が主で、一人仕事中心の業務でしたが、現在、その活動範囲は研究室から学科・学部へと広がってきており、組織化され自立した業務へと確実に変化しつつあります。

そんな変わりつつある技術部にはどんな力が備わっ

ているかを分析し、何が強みで何を売りにしていくのかを大いに議論するとともに、多種多様な業務をトップマネジメントしていく力が必要であると思います。技術職員が創意工夫を重ね、情熱を持って業務に取り組むことができる環境を整え、技術部の組織や活動が少しでも高く評価されるよう、微力ではありますが、取り組んでいきたいと考えております。

皆様方のご理解と一層のご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 21 年 8 月 1 日 技術部長 飯塚 靖子
(化学系)

「技術相談窓口」開設しました

このたび、工学系技術部職員の知識と技術を学内の教育・研究活動に幅広く生かすことを目的に、「技術部相談窓口」を開設しました。

この相談窓口では、皆様の研究や実験等でお困りのことについて、相談を受け付けています。

私たち技術職員でお役に立つことがありましたら、協力させていただきますので、どうぞお気軽にご利用ください。

開設した窓口について

・群馬大学大学院工学研究科並びに工学部の教職員の方ならどなたでも利用できます。

・利用者は、技術部ホームページ上の窓口において必要事項を記入・送信することにより受け付けられ、技術部として対応します。なお技術部ホームページは下記 URL です。

<http://www.tsk.gunma-u.ac.jp/>

【群馬大学工学系技術部】 技術相談窓口

工学系技術部職員の知識と技術を学内の教育・研究活動に幅広く生かすことを目的に、「技術相談窓口」を開設しました。

皆様の研究実験等でお困りのことはありませんか？
私たち技術職員でお役に立つことがありましたら、お気軽にこの窓口でご相談ください。
*費用が発生した場合は、「受益者負担」とさせていただきます。

技術相談窓口 受付

・受付フォーム

【注意】 受付フォームの入力が完了しますと、「相談受付完了」メールが自動返信でお手元に届きますので、ご確認ください。変更等がありましたら、下記宛にご連絡ください。
また、一時間以内メールが届かない場合は、記入していただいたメールアドレスが間違っているか、なにがトラブルが起きている可能性がありますので、お名前と正しいアドレスをお知らせください。

【問合せ先】 E-Mail: senmon@tsk.gunma-u.ac.jp

[このページを開く](#)

廃液処理グループよりお知らせ

| H21 年度 廃液集荷作業計画 | |
|-----------------|------------------------|
| 第3回 | 10/14 (水) 9:30 - 11:30 |
| 第4回 | 12/16 (水) 9:30 - 11:30 |
| 第5回 | 2/3 (水) 9:30 - 11:30 |

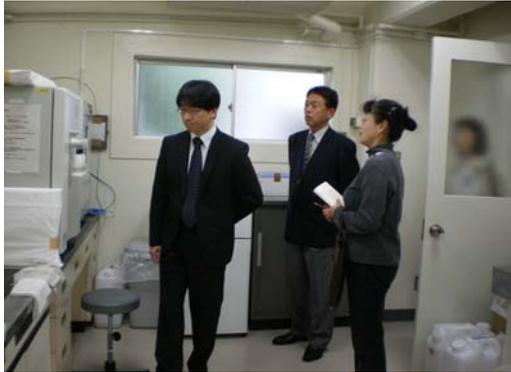


工学研究科長の構内巡視実施と技術部環境整備グループによるサイクルスタンド製作現場の視察

工学系技術部 安全衛生グループが務める桐生事業場安全衛生委員会では総括安全衛生管理者である板橋工学研究科長と亀井事務長、飯塚技術部長、今井庶務係長及び衛生管理者3名で6月8日(月)10:00~11:40 工学部構内の巡視を実施した。

巡視箇所は、平成21年3月に改修が終わった環境保全支援センターの作業環境測定室と廃液保管用倉庫、化

学系研究室、電気電子棟北口駐輪場等の巡視と技術部環境整備グループに製作を依頼したサイクルスタンドの製作現場を視察した。今回の巡視では、駐輪場不足を除いて、構内の大半の建物は、改修により、耐震対策が施され、舗道も整備されて、特に問題箇所もなく、研究室も整理整頓され、安全で良好な研究環境であったことを確認した。



安全衛生委員会で高圧ガス取扱講習会を実施

工学部では高圧ガス保安法に基づき、第二種高圧ガス貯蔵所として管理者・使用者の保安教育が義務付けられている。そのため桐生事業場安全衛生委員会の主催による平成21年度高圧ガス取扱講習会(第一回)が平成21年6月24日(水)14:30~15:30、8号館2階8N21室で開催された。

講師に工学研究科機械システム工学専攻の志賀教授を迎え、高圧ガスの基礎知識~高圧ガスは何故危ないか、高圧ガス保安法、高圧ガスボンベの取扱い等について、研究室・実験室内での事故事例等を交え教職員・学生を対象に1時間に亘りおこなわれた。工学的な基礎知識を得るだけでなく、安全な研究環境を維持する上で実益に有益な講習であった。100名を超える聴講者は皆、熱心に聴き入っていた。



作業環境測定グループ報告 ーより厳しい 管理濃度ー

作業環境測定グループでは、平成21年度前半、第10回作業環境測定を3月23日、5月25日~7月9日に行い、80サンプルを測定しました。後半の第11回は、10月末から行う予定です。

平成21年7月1日より法改正に伴い、管理濃度が低減しました。現在測定している物質では、クロロホルム **3** (10)・テトラヒドロフラン **50** (200)・トルエン **20** (50)・弗化水素 **0.5** (2)ppm、アクリルアミド **0.1** (0.3)・粉じん **E=3.0/(1.19Q+1)** (E=3.0/(0.59Q+1))

mg/m³等、試薬を使用する際は、ドラフト内で作業を行なうとともに室内の換気に気を付け、よりよい環境に努めてください。()内は旧管理濃度

8月19日、茨城大学より2名、作業環境測定・粉じん測定を始めるにあたり調査のための来学があった。全般的な意見交換も行き、作業方法の確認や情報提供等、今後も交流を行う予定である。